6.

戸數割賦課法に就て
炭坑地九ヶ村長の陳情
坑夫から個別に徴收は不可能

改正戸數割規則は各地に於て批難多く全國的に反對運動起る可き形勢である佐賀縣下炭坑地でも新法に依つて從來の習慣を破り納屋も各戸別に課税する事となつてゐるが移動頻繁な彼等坑夫全體から個別に徴税する事は事實に於て不可能の事であるといふので東松浦郡北波多相知厳木小城郡東多久北多久西松浦郡東山代西山代杵島郡大町北方の九箇村は申し合せて各村から村長又は助役一名宛九名が廿三日午前十一時縣廳を訪び知事不在の爲め山口地方課長に面會し從來の通り納屋は五戸を一戸と見做して課税し坑主の責任とする法を採用する樣懇請した之に對し山口課長は之迄は取扱規則もなかつた徴收法も區々で便宜に取扱はれてゐたが今回は勅令を以て規則が發布されて一戸別に徴收する事に定められたのであるから縣としては何とも致し方がないから併し當該村として尤もの事であらうから充分調査研究の上尚考慮する事としようと答へ各村長は之を諒として辭去した

納屋戸割賦課
長崎縣下統一

長崎縣にては從來坑夫納屋に對する戸數割の賦課は其の取扱區々であつたがこれが統一の必要上各郡の援助に依り五戸を以て一戸とする事に鑛業主との間に協定成り茲に全縣下の取扱ひを統一する事となり將來協定の變更なき限り之れに基き取扱ふ事になつた

八幡製鐵所の
職工生計狀況調べ
最高は月收百九十八圓で最低は同卅二圓

勞働者の生計調査が縣下一齊に施行される模樣であるが八幡製鐵所では昨年の農商務省の全國的生計調査に鑑み保健課に命じて昨年七月以來一ケ年の豫定で職工月收三十圓以上百五十圓以下の者三百五十名を選び目下之れが調査中である部分的に調査の内容を示すと臨時的でない月收平均は八十二圓四十一錢でその内生活費は六十九圓四十三錢差引十二圓九十八錢餘りが貯金として殘つてゐる最高月收は百九十八圓九十三錢で同支出は百九十五圓四十錢最低月收三十一圓八十八錢でその生活費は二十二圓十八錢である最高の收入者は貸家等を所有し子供は中學などに通はせて居り最低の支出者は獨身者で製鐵所職工合宿所居住であるこれを割合で示すと收入の八割四分二厘八毛が生活費で貯金は僅かに一割五分七厘二毛を占めてゐるに過ぎない又居住家屋は甚だ狹小なもので一人平均二、七枚でその家賃は一枚八十七錢である而して疊數の割當は小供は大人の半と見てその割合を半減してゐる如是き結果を示してゐるがこれは部分的のもので今月末でなければ一ケ年を通じての結果は明らかでないけれど概して職工の生活は良好である

職工三萬七千
製鐵所の現在數

八幡製鐵所從業員は昨年の冬の淘汰で少からぬ解雇が行はれたが夫れでも尚三萬七千餘名に達して居る之れを昨年四月に比較すれば凡そ三千餘名の減員であるが七百萬圓を損失しても尚此多人數に失業の浮目を見せまいとする同所白仁長官が苦心も故ある事と首肯かれる三萬七千餘名の内譯を示せば職員九百八十餘名、雇千四百八十餘名、職工東鐵同所を合し一萬六千四百七十餘名、二瀬其他の採坑々夫一萬千八百餘名其他人夫等合算すれば驚く勿れ三萬六千餘名となる

製鐵所公傷者
二萬八千人

八幡製鐵所保健課で調査中であつた同所昨年度の公傷者は二萬七千八百十三人内死亡者四十一人で一箇月平均負傷者は二千四百一人の多數に上つた

然して同所從業勞働者の二萬五千人に配比すると一日一人三分に當るが是れを米國の工場に比較すると實に三倍弱に當る負傷者の最も多い月は例年九月が多く次いで五月、七月と云ふ順序だが季節交りは人心の弛緩する關係上負傷する者も多いらしい、更らに交代時間別に見ると午前六時出勤者の勤務者に少なく最終交代者に多く交代制度に比すると現在の三交代の方か負傷者も少ないと(八幡)

八幡を見舞ふた
不景氣風
金物界の不況から ドコもカも悲運

製鐵所の一顰一笑に全く支配されてゐる八幡市は數年打續く金物界の不況に押されて好景氣時代の素晴らしい勢ひは何處へやら今は全く氣息奄々たる姿が市全體を蔽ふてゐる殊に市の商家の如きは元來餘り資金を有せない地方營業者が多い所から店仕舞ひの悲しい貼紙が町の隨所に發見される有樣である少々手廣く行つてゐた店でも窮餘の一策に會社組織に變更するとか合資の形に改めるとか實際慘めなるものである勞働者相手の酒場カフエーが三日に十圓を賣上げる家はまたしも軒を竝べて倒れて行くのを見て延いて花柳界の寂れ方は想像に難くない一時は好景氣につれて八幡へ／＼と押掛て來た多數の人達の家だけでも土地が狹隘を告げ斯くて山手方面に住宅が續々建てられてゐたものだが今は山手方面だけの空屋が五十軒を算し半分建ち掛かつたものの其儘になつて不況の憂目を語つてゐる物もある殊に職工は別として三萬餘からの自由勞働者が八幡で夫々暮しを立てて來たのが製鐵所が極度の緊縮方針に出たので勢ひ自由勞働者の淘汰が行はれ今では約五千名を算して居るのであるそして自由勞働者の宿であつた人夫下宿屋が昨年六月には四百餘軒あつたが今では二百餘軒に半減し尚續々廢業を希望して居るものがあるとのことである斯る不景氣が何時まで續くか金物界の景氣恢復は延て八幡十二萬人口の上に及ぶものである

採炭減少
福岡鑛務署管内

福岡鑛務署管内西部主要炭山の五月中出炭額は
百六十二萬三千三十五噸で前月に比し六萬七千四百噸の減少であるが前年同期に比すると十一萬八千十四噸を增加してゐる是は昨年五月が斯く出炭額少きは採炭制限實施の結果で今年に入つては一般に諸炭山とも夏枯れの狀態である然るに昨年五月の管内主要炭山數は七十二礦であつたが今年は四礦を增加し七十七礦中前月より二割以上增加せるもの三十鑛二割以下に減少せるもの十鑛である
次に金は
七萬五千二百六十一匁で前月より九千七百九匁減じ銀は五十九萬三千五百三十六匁で前月より十九萬五百二十七匁を減少し銅は七十三萬七千七十六噸で前月より九萬四千二百五十四噸を增加してゐる
(福岡)